

2020 年度事業報告書

I. 概況

世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の中で改めて医療・医学の重要性が再認識されてきている。我が国の痛風・尿酸に関する研究は年々深化を続け、今や世界トップレベルにあり国民の健康維持に大きく貢献しており、財団が長年にわたり実施してきた痛風・高尿酸血症の原因究明と治療レベル向上の為の助成や研修や啓発事業などの必要性も大きくなっている。

近年、痛風の要因でもある尿酸自体の研究に関する論文も多く発表され、尿酸が痛風や腎臓・心血管のみならずその他多くの疾患に関係していることが明らかになり、助成事業も広く尿酸分野の研究者を対象とする方針で臨んでいる。

2020 年度は、以下の如く研究者への助成、診療に当たる開業医等一般医師を対象とした研修会の開催や多くの人々への啓発活動などの事業を行った。

一方で、事業を支える財政面では、寄付金や会費の減少が響き、厳しい運営を求められている

II. 事業の概要

1. 研究助成事業

痛風・尿酸・核酸代謝に関する臨床的或いは基礎的研究を促進することを目的とする研究に対して助成を行った。

募集は、全国医学系大学 81 校や関係研究機関への募集要項の送付、財団ホームページや医学関係新聞雑誌などへの掲載を 9 月 1 日から 10 月 30 日まで行った。

この結果、45 名の応募があった。

選考は、専門分野を考慮して委嘱された 7 名の選考委員が応募書類を事前に審査し、その結果をもとに 12 月 16 日と 17 日開催の選考委員会で最終審議を行い、研究助成対象者 13 名に総額 600 万円の助成を実施した。

選考委員 7 名

山中 寿

医療法人財団順和会山王メディカルセンター 院長
公益財団法人痛風・尿酸財団 理事長

鎌谷 直之

ステージン医療人工知能研究所 所長

古波蔵 健太郎

琉球大学医学部附属病院第三内科 准教授

谷口 敦夫

公益財団法人結核予防会複十字病院 膠原病リウマチ科

新田 孝作

東京女子医科大学病院腎臓内科 教授

細谷 龍男

東京慈恵会医科大学 名誉教授

堀内 孝彦

九州大学病院別府病院 病院長

研究助成対象者 13名

鶴田 文憲 筑波大学 生命環境系 助教

研究テーマ：プリンスクレオチド代謝による発達過程ミクログリアの形質制御
- HPRT1 変異はなぜレッシュナイハン症候群になるか？

榊原 伸一 早稲田大学・人間科学学術院 教授

研究テーマ：プリノソーム形成を制御する新たな因子 Nwd1 を介するプリン代謝調節機構の解明

安西 尚彦 千葉大学大学院医学研究院 教授

研究テーマ：尿酸・有機酸トランスポーターMCT9 (SLC16A9)の細胞内結合タンパク質同定と輸送機能制御機構解明

寺尾 知可史 国立研究開発法人理化学研究所生命医科学研究センター
ゲノム解析応用研究チーム チームリーダー

研究テーマ：日本人特異的尿酸レベル決定遺伝子多型とエンハンサー発現

久留 一郎 鳥取大学医学部ゲノム再生医療学講座(再生医療学分野)教授

研究テーマ：尿酸塩結晶によるマクロファージにおけるインフラマソームの新たな活性化機構の解明

内村 幸平 山梨大学大学院総合研究部医学域 助教

研究テーマ：ヒト iPS 由来腎臓オルガノイドを用いた高尿酸腎障害モデルの確立

井上 浩一 名古屋市立大学大学院医学研究科准教授

研究テーマ：尿管細胞を標的とした尿酸誘導性ナトリウム再吸収の分子基盤の解明と高尿酸依存性高血圧の予測因子の探索

岡本 研 東京大学 特任研究員

研究テーマ：低酸素ストレスに対する抗痛風薬と、サルベージ経路、denovo 経路代謝物添加効果

永森 収志 東京慈恵会医科大学准教授

研究テーマ：ヒト腎近位尿細管一細胞遺伝子発現解析に基づく尿酸輸送モデルの高解像度化と新規尿酸輸送体の同定

Nicholas F. Parrish 理化学研究所生命医科学研究センターチームリーダー

研究テーマ：ゲノム転移因子由来のゲノム構造多型が引き起こす尿酸値異常：20万人の日本人ゲノムを用いたゲノムワイド関連解析

高田 龍平 東京大学医学部附属病院薬剤部 講師/第一副部長

研究テーマ：新規尿酸トランスポーターと血清尿酸値変動薬に関する研究

関根 舞 東京薬科大学薬学部助教

研究テーマ：ヒト脳組織のプリン代謝解析

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校防衛医学研究センター長

研究テーマ：腎性低尿酸血症診療ガイドライン改訂に向けた臨床遺伝学的解析

2. 研修会及び痛風協力医療機関推薦事業

① 第31回痛風・尿酸研修会

コロナ禍の影響を考慮して、従来の一室に介しての講演会方式からPDF化した資料を事前送付し自宅学習する方式へと変更し、9月13日～30日に実施した。
参加者は120名であった。

演題及び講師

- (1) 血清尿酸値の低下作用が示唆される食材および食材に含まれる物質
森脇優司先生（神戸学院大学栄養学科栄養学部教授）
- (2) 最近の尿酸関連論文における考察
鎌谷直之先生（スタージェン医療人工知能研究所 所長）
- (3) 尿酸トランスポーター（非臨床試験を中心にして）
玉井郁巳先生（金沢大学医薬保健研究域薬学系薬物動態学研究室教授）
- (4) ドチヌラドの基礎、臨床
細谷龍男先生（東京慈恵会医科大学名誉教授）
- (5) 尿酸値は小腸上皮障害のマーカーとなる：分子遺伝疫学解析によるヒト腸管からの尿酸排泄の証明
松尾洋孝先生（防衛医科大学分子生体制御学講座准教授）
- (6) 高尿酸血症と生活習慣病の関連
～キサンチン酸化還元酵素の意義も含めて～
藏城雅文先生（大阪市立大学医学部内分泌代謝内科学講師）

② 痛風協力医療機関の推薦

新たに下記医療機関を推薦した。この結果2021年3月末現在の痛風協力医療機関は全国で合計122機関となった。

推薦医療機関：深谷中央病院（金子勝先生） 深谷市原郷500番地

3. 啓発事業

① インターネットによる啓発

ホームページへのアクセス数は年間200万件以上に達しており、患者や家族のみならず一般の方々に対しても有効な情報伝達手段として定着したと考えられる。より多くの方に痛風や尿酸についての基本的な知識や最新情報を知って貰うために、ホームページの改定を行い、新理事長による「理事長通信」、前理事長による「医学の地平線」、一般の方々にも分かりやすい「痛風・尿酸ニュース」を新設した。

② 一般の方々からの質問への対応

一般患者や家族などからのメールや電話での問い合わせは多く、医療機関については痛風協力医療機関を紹介し、症状等の対処方法や食事療法に関することはその都度専門医師に確認をして回答内容を伝えている。

③ 小冊子及び会報による啓発

小冊子「尿酸値をコントロールする」は、協力医療機関を通じて一般の方々に配布すると共に、8月と1月に会報を発行した。

8月の会報には、令和元年度/痛風・尿酸財団賞受賞の防衛医学医科大学分子生体制御学講座准教授である松尾洋孝先生の「小腸上皮障害のマーカーとしての血栓尿酸値」と題する受賞研究の背景やその後の進展状況などを掲載し、1月の会報には財団役員各位からの寄稿文を掲載した。

Ⅲ. 財団運営関係

◦6月に鎌谷直之前理事長が退任し、山中寿新理事長が就任した。

◦昨年来の新型コロナウイルス感染防止に伴う緊急事態宣言・外出自粛などに対応する為に、財団としては在宅勤務・時差出勤の併用、理事会・評議員会・研究助成選考委員会のZOOM会議、自宅学習方式の研修会などの様々な対策を実施した。

◦会員の現況（2021年3月31日現在）

個人賛助会員	102人
団体賛助会員	11団体
特別賛助会員	8団体

以上